

機関リポジトリ推進委員会での リサーチデータの取り扱いに向けた活動

- ▶ Research Data Managementポリシーに関する検討（ポリシー）
 - ▶ 海外の大学等のポリシーから何をどう管理すべきかを検討
 - ▶ システム・人材育成的な要件として反映
- ▶ データリポジトリシステムに関する評価（システム）
 - ▶ 主要システムから必要な機能要件を導出
 - ▶ JAIRO Cloudの改良・次世代システムへの反映
- ▶ リポジトリへのデータ登録試行実験（ポリシー、システム、人材育成）
 - ▶ 論文の補遺的なデータ(サプリメンタルデータ)から試行
 - ▶ ワークフローの確認
 - ▶ 必要となるシステム要件の洗い出し
- ▶ 海外動向調査
 - ▶ 英国エジンバラ大学図書館、Digital Curation Centreとの情報交換（11月4～6日）
 - ▶ International Digital Curation Conferenceへの参加・発表（2月9～12日）
 - ▶ サウサンプトン大学、エクセター大学との情報交換（2月13～16日）
 - ▶ その他Webを中心に情報収集とまとめ

欧州における Open AccessとOpen Research Data

- ▶ EUのHorizon2020やUKのREF2020のポリシーにより、100%Open Accessに向けた動きが次のフェーズに突入
 - ▶ Horizon2020や主要財団のOpen Research Dataに関するポリシーやガイドラインを受け、大学におけるデータリポジトリの活動も活発化
 - ▶ 例：英国大学の状況
 - ▶ 23大学でデータリポジトリを公開、20大学が現在構築中（2014年11月現在）
 - ▶ 各Funderの条件・フォーマットに沿ったData Management Planが作成できるツールの共有化
- 
- ▶ 単にアウトプットだけを集約するのではなく、研究計画からアクティブデータまで保全するシステム開発の強化（ワークフロー⇒システム）
 - ▶ 各大学における研究データを対象としたSubject Librarianや技術者の雇用も加速化（キュレータ⇒人材育成）

日本のOpen Research Dataの活動に向けて

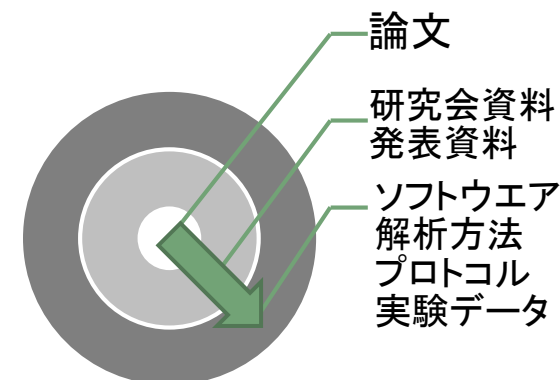
▶ Open AccessからOpen Research Dataへ

▶ 研究コミュニケーションの変革

- ▶ データの公開が研究コミュニティの核になる
- ▶ 研究成果に対する信頼性の担保



▶ 機関リポジトリの対象の拡大(White⇒Gray)



大学・研究機関と国立情報学研究所とで取り組むべき課題

ポリシー

- 機関におけるデータ管理ポリシー
- Funding Agencyとの相互理解、情報共有

システム

- 研究ワークフローを視野に入れたシステム開発
- 研究成果の先取権や透明性を担保

人材育成

- 専門職員の育成
- 図書館員とURA(リサーチ・アドミニストレータ)との連携